

## 2005年の大雨

### 1. 概要

今年の梅雨入りは南西諸島を除いて平年より遅く、特に、九州南部、北陸、東北北部では平年に比べ2週間程度遅れた。梅雨明けは沖縄と東北で遅く、東北では平年に比べ10日前後遅かった。その他は平年並みか平年より早い梅雨明けとなった。梅雨時期の雨量は、九州南部から東海にかけては、平年より少なかったが、南西諸島では、6月に活発な梅雨前線の影響を受け平年よりかなり多かった。

6月には梅雨前線が南西諸島から本州南岸に停滞することが多く、南西諸島では記録的な大雨となったが、6月終わりごろからは梅雨前線が本州に停滞することが多くなり、北陸地方などで大雨となった。梅雨入りは概ね平年よりも遅く、東北地方を除き梅雨明けはほぼ平年並か早かった。9月初めに上陸した台風第14号の影響で九州、中国、四国地方では降り始めからの総雨量が9月の月間平均雨量の2倍を超え、特に宮崎県では総雨量が1,000 mmを超えた。

### 2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。ただし、台風によるものは、別途、「台風」で記載した部分を参照のこと。なお、浸水家屋とは床上浸水と床下浸水の合計を示す。負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

#### (1) 6月13日～18日：沖縄県<梅雨前線>

13日から18日にかけて、沖縄地方に停滞した梅雨前線の影響により、沖縄本島で大雨となった。那覇市安次嶺で17日09時までの1時間に80 mmの猛烈な雨が降るなど、沖縄本島では降り始めからの総雨量が多い所で600 mmを超えた。

このため、浸水家屋44棟、土砂崩れ34か所などとなった。

#### (2) 6月27日～7月15日：西日本から北日本

##### <梅雨前線>

6月27日から7月15日にかけて日本付近に停滞した梅雨前線の影響により各地で大雨となった。期間総雨量を第1図に示す。

6月27日から7月4日にかけては、東北地方や西日本に前線が停滞し北陸地方、中国地方、四国地方を中心に大雨となった。特に、6月27日には新潟県で日雨量が200 mmを超え、28日には同県で300 mmを超えた。また、7月3日には山口県で300 mmを超えた。

7月5日から7月6日にかけては、九州地方に前線が停滞し九州地方を中心に大雨となり、特に、前線が九州地方南部に南下した6日には熊本県で猛烈な雨が降った。

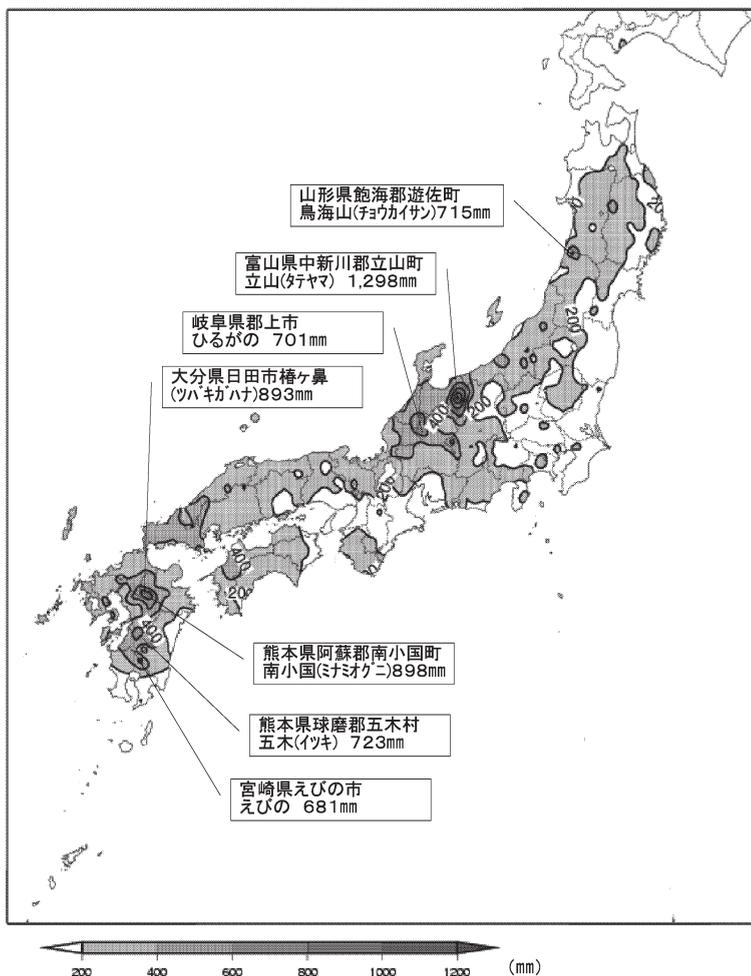
7月8日から7月15日にかけては、西日本から東日本に前線が停滞し九州地方を中心に大雨となり、特に、7月9日には和歌山県や静岡県で日雨量が200 mmを超えた。また、7月10日には熊本県で明け方に一時猛烈な雨が降り、日雨量が300 mmを超えた。

このため、土砂災害や浸水害が発生し、新潟県では柏崎地区を流れる鵜川の堤防決壊などにより浸水家屋710棟、山口県では柳井市を中心に浸水家屋が1,015棟、香川県では浸水家屋443棟、大分県では河川の氾濫や土砂災害により死者6名などとなり、全国で死者・行方不明者12名、住家損壊26棟、床上浸水387棟、床下浸水3,839棟などの被害が発生した。

#### (3) 7月30日～31日：島根県、近畿地方から東北地方<前線、大気不安定>

30日から31日にかけて、日本海に前線が停滞し、南から湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、山陰、関東地方北部で大雨となった。30日に群馬県赤城山で1時間雨量96 mm、31日は島根県浜田で58.5 mm、岩手県軽米で52 mmを観測するなど局地的に雷を伴い非常に激しい雨が降った。

このため、岩手県軽米町で床上浸水1棟、床下浸水18棟、福島県郡山市で床下浸水15棟などの浸水害、群馬県富士見村など5か所で土砂崩れなどの災害が発生



第1図 アメダスによる総雨量分布図（期間：6月27日～7月15日）。

した。31日には千葉県白子町中里海水浴場で落雷により死者1名、負傷者8名となる被害は発生した。

(4) 8月2日～8月4日：長崎県，関東甲信地方，北海道<前線，大気不安定>

8月2日から4日にかけて，朝鮮半島から日本海に停滞する前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安となり，長崎県や北海道で大雨となった。2日に対馬市厳原で1時間雨量84mm，北海道胆振支庁大滝村で62mmの非常に激しい雨が降った。

このため，長崎県対馬市や北海道小樽市で床上・床下浸水，がけ崩れなどの被害が発生した。また，関東甲信地方では落雷による火災や停電が発生した。

(5) 8月8日～17日：中国・四国地方から東北地方<前線，大気不安定，竜巻>

8日は，前線が北日本に停滞し，大気の状態が不安定となり関東地方南部や北陸の一部で大雨となった。

9日は，西日本から東日本にかけては，大気の状態が不安定となり一部で雨となった。10日は，前線が北陸から東北南部に停滞したため，北陸と東北南部で大雨となった。また，新潟県三条市では藤田スケールF0～1と推定される竜巻が発生し，屋根瓦等の飛散物により，車のフロントガラスが割れるなどし，4名が軽傷を負った。11日は，前線が日本海から東北南部に停滞したため，北陸では大雨となった。12日から13日にかけて，前線が日本海から東日本に停滞したため，近畿，北陸，関東地方南部から東北南部にかけて大雨となった。14日は，気圧の谷の影響で北陸東部と

東北北部で大雨となった。15日は，日本海中部に中心をもつ低気圧が房総半島沖に南下し，また，上空の寒気の影響により，近畿から東北地方の日本海側を中心に大雨となった。16日は，本州の南海上に中心をもつ低気圧の影響により，東海と北陸，甲信地方で大雨となった。17日は，近畿から関東地方にかけて雨となった。降り始めからの総雨量は，北陸地方を中心に200mmを超え，新潟県朝日村高根で550mm，富山県立山町立山440mm，新潟県新発田市赤谷で390mmなどとなった。

このため，死者2名，住家損壊42棟，床上浸水219棟，床下浸水1,898棟，土砂崩れ111か所などの被害が発生した。特に，新潟県では三条市などで10日から13日にかけて住家一部損壊26棟，床上浸水43棟，床下浸水1,024

棟の被害が、埼玉県では川口市などで12日に床上浸水50棟、床下浸水305棟などの被害が、東京都では中野区などで15日に床上浸水92棟、床下浸水103棟などの被害が発生した。

(6) 8月18日～23日：九州北部(山口県を含む)、近畿地方から北日本<前線、大気不安定>

18日から23日にかけて前線が日本付近に停滞し、また、南から暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、20日に新潟県魚沼市入広瀬で1時間雨量82 mm、山形県村山市村山で50 mm、21日に山口県下関市下関で59.5 mm、23日に千葉県千葉市千葉で55.5 mmの非常に激しい雨が降った。降り始めからの総雨量は宮崎県、長崎県、和歌山県、岐阜県、北海道で200 mmを超えた。

このため、山口県で床上浸水7棟、床下浸水107棟、新潟県で床下浸水183棟、奈良県で床下浸水63棟となったほか、土砂崩れや落雷により3名負傷する等の被害が発生した。

(7) 9月10日～11日：長崎県、大阪府、長野県、関東地方南部<前線、大気不安定>

10日から11日にかけて、前線が対馬海峡付近に停滞し、南から暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、10日に長崎県五島市福江で1時間雨量89 mmの猛烈な雨が、11日には茨城県龍ヶ崎市龍ヶ崎で44 mm、千葉県佐原市佐原で40 mmの激しい雨が降っ

た。

このため、長崎県五島市で床下浸水15棟、がけ崩れ17か所の被害が、茨城県で床下浸水13棟などの被害が発生した。

(8) 9月18日：青森県(大雨)<前線>

18日に日本海から北海道にのびる前線が南下したため、青森県では大雨となり、むつ市脇野沢で1時間雨量60 mmの非常に激しい雨が降り、日雨量はむつ市脇野沢で194 mm、今別町今別で137 mm、外ヶ浜町蟹田で120 mmなどとなった。

このため、青森県で床上浸水7棟、床下浸水41棟、土砂崩れ22か所などの災害が発生した。

(9) 10月22日～23日：中国地方、関東地方北部、東北地方<低気圧、大気不安定>

22日に低気圧が日本海中部に東に進み、別の低気圧が関東の東海上にあって北東に進んだ。また、上空には寒気が流れ込み、22日から23日にかけて大気の状態が不安定となり、22日に宮城県石巻市雄勝で1時間雨量が95 mmの猛烈な雨を観測するなど局地的に雷雨となった。降り始めからの総雨量は、東北地方などで100 mmを超え、宮城県三陸町志津川で226 mm、宮城県石巻市雄勝で198 mmなどとなった。

このため、宮城県では床下浸水84棟、土砂崩れ11か所、栃木県と茨城県では降ひょうによる農作物被害などが発生した。

## 2005年の台風

### 台風第7号, 11号, 14号が上陸

#### 1. 概況

平成17年に発生した台風は23個と平成(26.7個)に比べ少なかった(第4表)。

日本に上陸した台風は、平成16年は記録的な10個であったが、平成17年は台風第7号, 台風第11号, 台風第14号の3個(平成2.6個)と平成並だった。また, 接近数も12個(平成10.8個)と平成並で, 日本本土への接近数は4個(平成5.2個), 南西諸島は8個(平成7.2個)となった。第1表に台風の発生数, 上陸数, 接近数を, 第2表に発生した台風の一覧を示す。

今年の台風は, 発生数が少ないこと, 九州や四国地方などの西日本への接近数が少ないことが特徴であるが, 西日本に上陸した台風第14号は, 西日本を中心として大雨や暴風による大きな被害をもたらした。

#### 2. 日本に影響した主な台風

日本に影響した主な台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする)のうち, 主な台風について以下に概要を示す。被害状況については, 主に気象庁が取りまとめた資料によるが, 一部総務省消防庁等発表の資料も使用した。第3表に日本に影響した台風の一覧, 第1図にその経路図を示す。

#### (1) 台風第5号 (HAITANG)

7月11日03時に南鳥島の南海上で発生した熱帯低気圧は西に進み, 13日09時に南鳥島の西で台風第5号となった。台風は西南西に進みながら急速に発達したあと, 次第に進路を西, 西北西へと変え, 16日15時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。17日には石垣島の南で進路を北西に変えた後, 18日に台湾を横断し, 19日には中国の福建省に上陸した。20日15時に華中で熱帯低気圧に変わり, 22日03時に消滅した。

宮古・八重山地方では大雨や暴風となった。降り始めからの総雨量は八重山地方で200 mmを超え, 竹富町上原で422 mm, 与那国町祖納で416 mm, 石垣市川平で365 mmとなった。また, 最大風速は与那国町祖納で18日に東の風34.9 m/s(最大瞬間風速54.8 m/s(東南東)), 石垣市登野城で東南東の風29.1 m/s(最大瞬間風速47.6 m/s(東南東))となった。

このため, 農業被害や交通機関の運休等があった。

#### (2) 台風第7号 (BANYAN)

7月20日21時にフィリピンのはるか東海上で発生した熱帯低気圧は北に進み, 22日03時に台風第7号となった。台風は進路を北に保ち, 24日03時に沖の鳥島の東海上で勢力が最大となった。台風はその後勢力を

第1表 平成17年(2005年)の台風発生数, 日本への上陸数, 日本への接近数。

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		発生数	上陸数	接近数										
平 年	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
2004年	発生数				1	2	5	2	8	3	3	3	2	29
	上陸数						2	1	3	2	2			10
	接近数				1	1	3	3*	6	3	3		1	19
2005年	発生数	1		1	1	1		5	5	5	2	2		23
	上陸数							1	1	1				3
	接近数				1		1	2	3	4	2			12

(注) 平年値は1971年~2000年の30年平均。

日本への接近は2か月にもたがる場合があり, 各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸: 台風の中心が北海道, 本州, 四国, 九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。

接近: 台風の中心が, 日本の海岸線から300 km以内に入った場合を「接近」という。

第2表 平成17年(2005年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		台風期間中の最低(六)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時	
		月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時北緯東経	海面気圧	風速	強風域半径	月日時北緯東経	種類	月日時北緯東経	種類
1	KULAP	1 14 09 5.2 148.1	1 15 21 9.5 146.6	1 18 21 985	1 19 03 25	1 18 09 NW: 330 SE: 220	km	1 19 15 18.7 155.1	L	1 20 03 18.9 155.8	L	
2	ROKE	3 12 09 6.0 151.4	3 15 09 11.5 137.5	3 16 21 980	3 16 21 30	3 16 15 N: 220 S: 150		3 17 21 11.6 120.0	TD	3 19 15 10.5 110.5	TD	
3	SONCA	4 21 15 8.7 141.9	4 23 09 11.6 132.8	4 25 09 935	4 26 09 45	4 24 21 SE: 410 NW: 300		4 27 21 27.7 148.7	L	4 29 15 27.0 168.0	L	
4	NESAT	5 30 09 8.7 148.4	5 31 21 10.3 144.4	6 4 21 930	6 4 21 50	6 7 03 SE: 440 NW: 370		6 11 09 34.6 145.1	TD	6 11 15 36.6 147.4	TD	
5	HAITANG	7 11 03 22.1 154.1	7 13 09 22.9 149.2	7 17 09 920	7 17 09 55	7 18 03 NE: 650 SW: 560		7 20 15 27.8 117.6	TD	7 21 21 28.8 113.9	TD	
6	NALGAE	7 18 09 21.3 168.0	7 20 21 26.0 162.6	7 23 03 990	7 23 03 25	7 24 03 E: 440 W: 280		7 24 21 35.7 163.9	L	7 28 03 42.6 165.5	L	
7	BANYAN	7 20 21 13.2 138.0	7 22 03 15.1 137.3	7 26 18 975	7 25 09 30	7 25 09 E: 650 W: 370		7 28 09 46.2 149.9	L	7 31 15 域外へ	L	
8	WASHI	7 29 03 18.0 113.0	7 29 21 18.8 111.5	7 31 15 985	7 31 09 25	7 31 03 E: 350 W: 90		8 1 03 20.0 103.0	TD	8 1 03 20.0 103.0	TD	
9	MATSA	7 30 21 9.0 137.9	7 31 21 11.8 133.8	8 5 06 950	8 5 15 40	8 5 06 SE: 560 NW: 370		8 7 21 33.0 119.0	TD	8 9 15 40.2 122.6	TD	
10	SANVU	8 10 03 14.0 130.6	8 11 15 17.1 124.6	8 13 15 985	8 13 15 25	8 13 03 E: 440 W: 220		8 14 03 26.3 115.3	TD	8 15 03 29.0 112.5	TD	
11	MAWAR	8 19 15 20.5 142.8	8 20 03 20.5 142.2	8 22 09 930	8 22 09 50	8 25 03 E: 330 W: 280		8 28 09 35.8 153.0	L	9 1 09 39.5 163.6	L	
12	GUCHOL	8 19 03 21.6 153.5	8 21 15 24.9 148.4	8 25 03 980	8 25 03 30	8 25 03 SE: 300 NW: 170		8 25 21 45.6 164.7	L	8 27 09 49.1 168.9	L	
13	TALIM	8 26 03 12.5 144.6	8 27 09 14.1 142.3	8 31 00 925	8 31 00 50	540		9 2 15 27.5 114.8	TD	9 3 03 28.5 114.4	TD	
14	NABI	8 29 09 14.6 154.0	8 29 21 15.0 152.3	9 2 21 925	9 3 03 50	9 4 18 SE: 850 NW: 700		9 8 15 47.4 147.9	L	9 10 03 49.6 170.5	L	
15	KHANUN	9 5 09 8.2 142.3	9 7 09 14.0 134.4	9 11 06 945	9 11 06 45	9 11 00 N: 460 S: 300		9 13 09 35.5 122.5	L	9 13 21 36.8 126.2	L	
16	VICENTE	9 15 15 14.1 115.6	9 16 21 11.4 114.2	9 18 09 985	9 18 09 25	9 18 03 E: 600 W: 370		9 19 03 19.3 102.4	TD	9 19 09 域外へ	TD	
17	SAOLA	9 19 09 19.9 155.1	9 21 03 22.3 151.1	9 25 00 950	9 25 18 40	9 26 15 W: 500 E: 370		9 26 21 38.9 151.2	L	9 28 09 域外へ	L	
18	DAMREY	9 19 15 13.2 127.0	9 21 09 18.0 122.8	9 26 03 955	9 26 03 40	9 26 03 SE: 170 NW: 90		9 28 03 19.5 102.6	TD	9 28 15 域外へ	TD	
19	LONGWANG	9 25 15 18.9 145.3	9 26 09 19.6 143.5	10 2 00 930	10 2 00 50	330		10 3 09 25.5 116.7	TD	10 3 15 25.5 116.7	TD	
20	KIROGI	10 9 09 22.0 137.9	10 10 15 22.6 133.9	10 12 21 930	10 12 21 50	370		10 19 15 31.2 141.6	TD	10 19 21 31.7 143.2	TD	
21	KAI-TAK	10 28 15 12.7 115.1	10 29 09 12.6 113.5	10 31 09 950	10 31 09 40	10 31 09 NE: 370 SW: 300		11 2 15 18.0 106.5	TD	11 2 15 18.0 106.5	TD	
22	TEMBIN	11 6 21 8.2 140.7	11 10 09 14.9 124.5	11 10 15 1002	11 10 15 20	11 10 15 N: 330 S: 220		11 10 21 15.8 121.8	TD	11 12 21 17.7 114.9	TD	
23	BOLAVEN	11 14 09 8.8 129.6	11 16 15 13.2 129.8	11 19 15 985	11 19 09 30	11 19 03 N: 560 S: 190		11 20 09 17.1 122.3	TD	11 20 15 17.9 121.1	TD	

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(六)値」の起時は、最低(六)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5 m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15 m/s以上の領域。

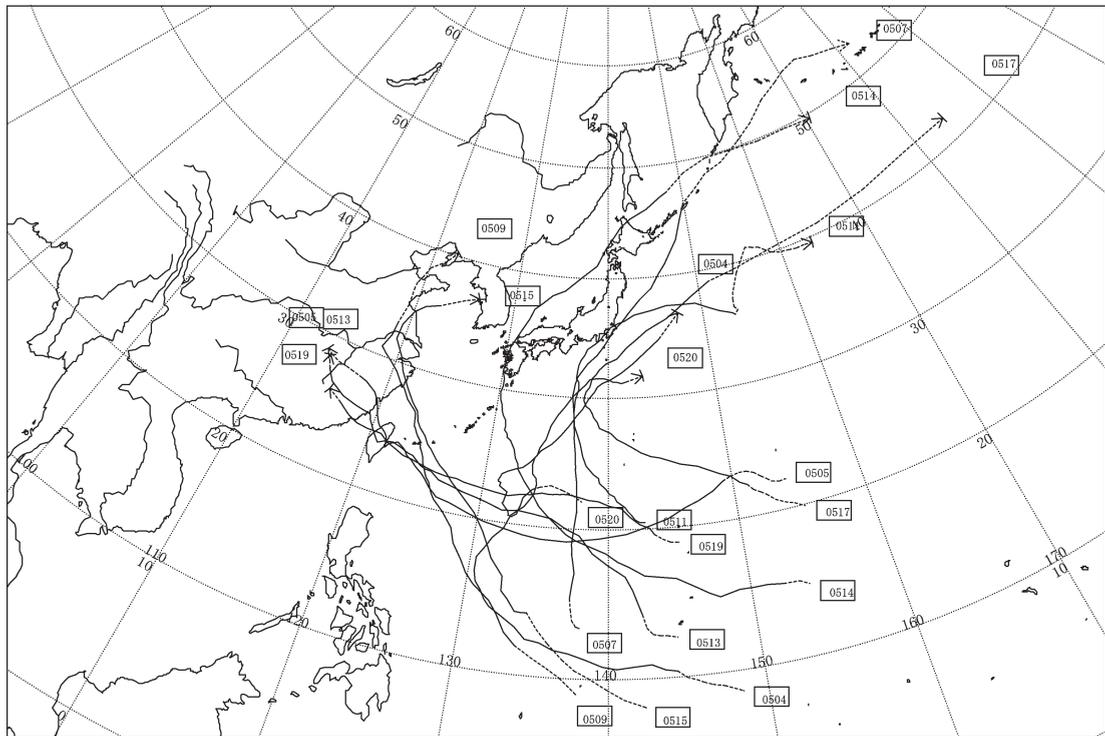
種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 平成17年(2005年)に日本に影響した台風の一覧表。

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km に入った場合)				日本への接近 (台風の中心が日本の海岸線から300 km 以内に入った場合)				上陸、通過
	月日		地域		月日		地域		
	始	終			始	終			
3	4/26	4/27	小笠原諸島		4/26	4/27	小笠原諸島		上陸または通過せず
4	5/7	5/11	沖縄地方, 伊豆諸島		5/8	5/11	沖縄地方, 伊豆諸島		上陸または通過せず
5	7/11	7/19	沖縄地方		7/17	7/19	沖縄地方		上陸または通過せず
7	7/25	7/28	西日本, 東日本, 北日本		7/25	7/28	近畿地方, 東日本, 北日本		7月26日20時頃, 千葉県鴨川市付近に上陸
9	8/3	8/6	沖縄地方		8/3	8/5	沖縄地方		8月4日20時前, 石垣島付近を通過
11	8/24	8/27	小笠原諸島, 西日本, 東日本, 東北地方		8/24	8/26	四国地方, 近畿地方, 東日本		8月26日02時過ぎに神奈川県三浦半島を通過した た後, 同日04時半頃, 千葉県千葉市に上陸した。
13	8/30	9/1	沖縄地方		8/31	9/1	沖縄地方		上陸または通過せず
14	9/3	9/8	沖縄地方, 西日本, 東日本, 北日本		9/3	9/8	沖縄地方, 西日本, 北陸地方, 北日本		9月6日13時頃, 熊本県天草下島を通過し, 同日14時半過ぎに長崎県諫早市付近に上陸した。 9月8日04時半頃, 北海道北部に再上陸した。
15	9/9	9/11	沖縄地方		9/10	9/11	沖縄地方		上陸または通過せず
17	9/22	9/25	小笠原諸島, 西日本, 東日本, 東北地方		9/22	9/25	小笠原諸島, 東海地方, 関東地方, 伊豆諸島, 東北地方		上陸または通過せず
19	10/1	10/2	沖縄地方		10/1	10/2	沖縄地方		上陸または通過せず
20	10/14	10/19	沖縄地方, 西日本, 東日本		10/15	10/19	沖縄地方, 伊豆諸島		上陸または通過せず

\* 台風の中心が日本の海岸線から300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」という。ただし, 現在は気象官署からの距離で計算している。  
\* 台風の中心が日本から概ね500 km に入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。



第1図 平成17年（2005年）に日本に影響した台風の経路図。

維持し、日本の南で進路を北東に変えた後、26日20時頃、千葉県鴨川市付近に上陸した。台風はなおも北東に進み、28日09時に千島近海で温帯低気圧に変わった。その後次第に東南東に向きを変え、31日15時にアリューシャン近海で日付変更線を越えた。

近畿地方から北日本にかけての太平洋側を中心で大雨や強風となった。降り始めからの総雨量は、関東・東海地方で200 mm を超え、静岡県伊豆市天城山で463 mm、神奈川県箱根町で436 mm、埼玉県ときがわ町で304 mm となった。また、太平洋沿岸では6 m を超える大しけとなった。

このため、埼玉県秩父市、栃木県茂木町などで5か所所で土砂崩れが発生した。また、静岡県や関東甲信地方を中心に交通機関の運休・遅延があった。

### (3) 台風第9号 (MATSA)

7月30日21時にヤップ島の南海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、7月31日21時にフィリピンのはるか東で台風第9号となった。台風は北西に進み、4日20時前、石垣島付近を通過した。東シナ海に入った台

風は、5日03時に勢力が最大となった後、6日09時頃に中国に上陸した。7日に華中へ向きを北に向けた台風は、21時に熱帯低気圧に変わり8日15時に山東半島で温帯低気圧に変わって北東に進み、渤海を通過して9日21時に遼東半島で消滅した。

宮古・八重山地方では大雨や暴風となった。降り始めからの総雨量は200 mm を超え、宮古島市鏡原で359 mm、竹富町西表島で293 mm、石垣市真栄里で205 mm となった。最大風速は、石垣市登野城で5日に南南西の風31.4 m/s (最大瞬間風速50.6 m/s (南南西))、与那国町祖納で4日に北西の風24.3 m/s (最大瞬間風速37.1 m/s (北北西の風))となった。また、先島諸島で3日午後には波の高さが6 m を超える大しけとなり、4日午後から5日午前中にかけては10 m を超える猛烈なしけとなった。

このため、農業被害や交通機関の運休等があった。

### (4) 台風第11号 (MAWAR)

8月19日15時にマリアナ諸島の北西海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、20日03時に台風第11号となっ

た。台風は北西に向きを変え、22日03時に勢力が最大となった。本州の南海上で転向した台風は、26日02時過ぎに神奈川県三浦半島を通過した後、同日04時半頃、千葉県千葉市に上陸した。台風はその後再び太平洋に抜け、東に進みながら28日09時に温帯低気圧に変わり、日本の東海上で9月1日15時に消滅した。

台風の北上に伴い、台風の北側にあった前線の雨雲により断続的に雨が降り、その後台風が接近した25日から26日にかけて東海地方から東北地方にかけての太平洋側を中心に総雨量が200 mmを超える大雨となり、神奈川県箱根町で568 mm、静岡県伊豆市天城山で374 mmとなった。また、25日には東京都大島で最大風速が南の風23.5 m/s（最大瞬間風速57.0 m/s（南））となり伊豆諸島などで暴風となった。

このため、東京都大島で住家の一部損壊52棟、倒木、土砂崩れなどの災害が発生した。また、関東地方を中心に交通機関の運休・遅延が生じた。

#### (5) 台風第13号 (TALIM)

8月26日03時にグアム島の南海上で発生した熱帯低気圧は西へ、その後北西へ進み、27日09時にグアム島の西海上で台風第13号となった。台風は西北西に向きを変え、30日03時に沖縄の南東海上で勢力が最大となった。台風は与那国島の南海上を通過して9月1日朝に台湾に上陸し、西北西に進んで台湾海峡に抜けた後、華南に再上陸した。台風は2日15時に熱帯低気圧に変わり、3日09時に華中で消滅した。

宮古・八重山地方では大雨や暴風となった。降り始めからの総雨量は100 mmを超え、石垣市川平で260 mm、与那国町与那国島で212 mm、竹富町西表島195 mmなどとなった。最大風速は与那国町与那国島で31日に北東の風38.2 m/s（最大瞬間風速57.8 m/s（東））、石垣市石垣島で東の風34.1 m/s（最大瞬間風速59.1 m/s（北北東の風））となった。また、沖縄地方の沿岸では6 mを超える大しけとなり、先島諸島の沿岸では12 mの猛烈なしけとなった。

このため、強風にあおられ屋根からの転落などによる負傷者7名、農業被害や交通機関の運休等の被害が発生した。

#### (6) 台風第14号 (NABI)

8月29日09時にマリアナ諸島の東海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、29日21時に台風第14号となった。台風は9月2日15時にフィリピンのはるか東で勢力が

最大となった後、北に向きを変え、南大東島と屋久島の近海をゆっくり通過した。台風はその後、6日13時頃、熊本県天草下島を通過し、同日14時過ぎに長崎県諫早市付近に上陸した。台風はいったん日本海に抜けて北東に進み、8日04時半頃、北海道北部に再上陸した。東に向きを変えた台風は8日15時頃にオホーツク海で温帯低気圧に変わり、10日09時にアリューシャンの南海上で消滅した。

1日から2日にかけて、本州付近に停滞した前線の影響により秋田県で大雨となり、3日には、台風の北上に伴って前線活動が活発化したことにより鳥取県で大雨となった。

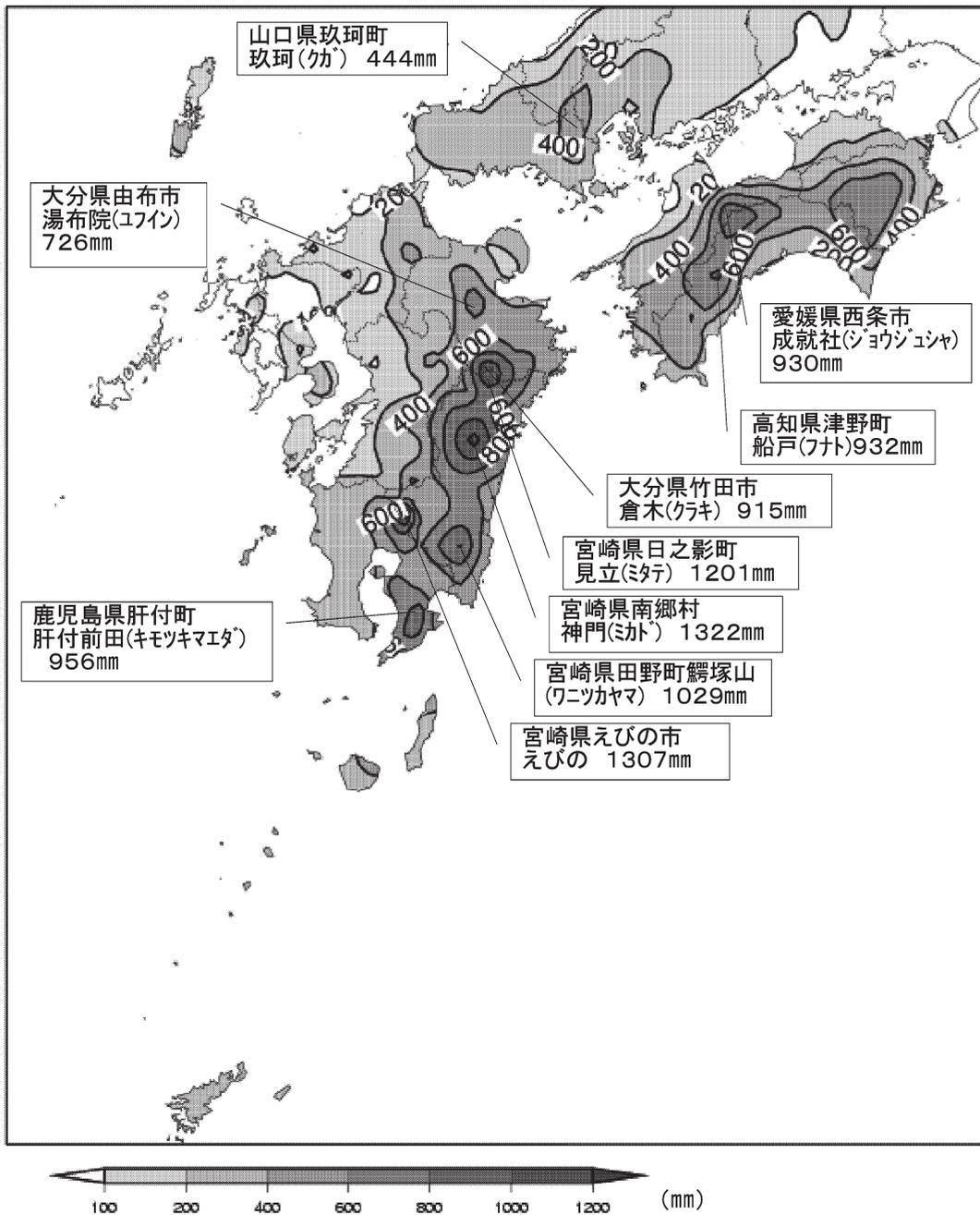
4日夕方から5日未明にかけて、台風周辺から秋雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、東京都、埼玉県、神奈川県で大気の状態が不安定となり雨雲が急速に発達したため、東京都と埼玉県では局地的に1時間に100 mmを超える猛烈な雨が降った。5日には宮崎県宮崎市で藤田スケールF1と推定される竜巻が発生し、軽トラックが持ち上げられて横転、倉庫全壊等の被害が発生した。

3日から8日にかけて、台風の影響が加わり各地で大雨となり、特に、九州、中国、四国地方では降り始めからの総雨量が9月の月間平均雨量の2倍を超え、宮崎県では総雨量が1,000 mmを超えた。期間総雨量を第2図に示す。また、台風の接近、上陸に伴い暴風となった。

このため、宮崎県では土砂崩れによる住家倒壊等により死者13名、住家の損壊4,719棟、床上浸水1,462棟、床下浸水2,919棟など、東京都では床上浸水2,852棟、床下浸水2,540棟などの被害が発生した。西日本を中心にがけ崩れ等の土砂災害が1都17県で発生し、土砂崩れによる住家倒壊等により死者26名、行方不明者3名、負傷者179名、住家損壊7,452棟、大雨による浸水は床上浸水9,333棟、床下浸水12,499棟となった。また、鉄道等の交通機関の運転中止や電力、水道等のライフラインの供給停止などの被害も発生した。

#### (7) 台風第15号 (KHANUN)

9月5日09時にヤップ島の東海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、9月7日09時にフィリピンのはるか東海上で台風第15号となった。台風はその後北西に進んで宮古島に接近し、10日18時に勢力が最大となった。台風は11日に中国に上陸し、転向しながら衰えた。台風は13日09時に温帯低気圧に変わり、14日03



第2図 アメダスによる総雨量分布図 (期間：9月3日～8日)。

時に黄海で消滅した。

宮古・八重山地方では大雨や暴風となった。降り始めからの総雨量は100 mm を超え、多良間村仲筋で148 mm、石垣市川平で142 mm、宮古島市鏡原126 mm な

どとなった。最大風速は多良間村仲筋で10日に北北西の風39 m/s、宮古島市宮古島で南東の風24.6 m/s (最大瞬間風速47.5 m/s (南南東)) などとなった。

このため、農業被害や交通機関の運休等の被害が発

生した。

#### (8) 台風第17号 (SAOLA)

9月19日09時にマリアナ諸島の北東海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、21日03時に台風第17号となった。台風は進路を西北西に保ったまま発達し、南硫黄島の南を通過して23日15時に硫黄島の北東海上で勢力が最大となった。台風は本州の南海上で転向した後、25日朝に八丈島近海を通過した。台風は東に向きを変え、26日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わり、28日09時に日付変更線を越えた。

25日に八丈町八重見ヶ原で1時間雨量56 mmの非常に激しい雨が降り、降り始めからの総雨量が三宅村三宅島阿古で270 mm、八丈町八丈島で249 mm、八丈町八重見ヶ原で235 mm、千葉県勝浦市勝浦で108 mmとなるなど、伊豆諸島や千葉県で大雨となった。また、伊豆諸島と千葉県の沿岸では暴風となり、最大風速が25日に八丈町八重見ヶ原で北北東の風31 m/s、八丈町八丈島で北東の風26.8 m/s (最大瞬間風速52.7 m/s (北))、銚子市銚子で北の風25.9 m/s (最大瞬間風速36.2 m/s (北北東)) などとなった。

このため、八丈島でかけ崩れ、八丈島や青ヶ島で強風による住家破損25棟などの被害が発生した。

#### (9) 台風第19号 (LONGWANG)

9月25日15時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、26日09時に台風第19号となった。台風は西北西に進んだあとと転向し、10月1日09時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風は同日、台湾に上陸した後、衰えながら西に進み、台湾海峡を通過

して2日には中国に再上陸した。台風は進路を北西に変え、3日09時に華南で熱帯低気圧に変わり、21時に消滅した。

石垣島地方では暴風となり、最大風速は1日に竹富町志多阿原で東の風26 m/s、石垣市石垣島で東北東の風22 m/s (44.2 m/s (東))、与那国町与那国島で北東の風25.1 m/s (最大瞬間風速37.5 m/s (北東)) などとなった。また、八重山地方の沿岸の海域では1日から波の高さが6 mを超える大しけとなり、その後12 mの猛烈なしけとなった。

このため、石垣市で強風にあおられ転倒などによる負傷者4名や交通機関の運休等の被害が発生した。

#### (10) 台風第20号 (KIROGI)

10月9日09時に硫黄島の南西海上で発生した熱帯低気圧ははじめ西に、その後南に向きを変え、10日15時に南大東島の南海上で台風第20号となった。台風は12日15時に同じ海域で勢力最大となった後、北に向きを変え、勢力を保ちつつゆっくりと北上した。台風は15日に南大東島の東海上を北東に進み、17日から次第に衰え、18日には東へと向きを変えた。台風は19日15時に八丈島の南海上で熱帯低気圧に変わり、20日03時に八丈島の南東海上で消滅した。

伊豆諸島南部では大雨や暴風となり、降り始めからの総雨量は八丈町八丈島で138 mm、最大風速は18日に三宅村三宅島で北北東の風20 m/s、19日に八丈町八重見ヶ原で北東の風21 m/s などとなった。

このため、八丈島では家屋の一部破損や道路の損壊等の被害が数件発生した。

第4表 台風発生・上陸数.

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年合計
1951 S. 26		1	1	2	1	1	3(1)	3	2	4(1)	1	2	21(2)
52 27						3(1)	3(1)	5(1)	3	6	3	4	27(3)
53 28		1			1	2(1)	1	6	3(1)	5	3	1	23(2)
54 29			1		1		1	5(1)	5(4)	4	3	1	21(5)
55 30	1	1	1	1		2	7(1)	6	4(1)	3(2)	1	1	28(4)
56 31			1	2(1)		1	2	5(1)	6(1)	1	4	1	23(3)
57 32	2			1	1	1	1	4	5(1)	4	3		22(1)
58 33	1			1	1	4	7(1)	5(1)	5(2)	3	2	2	31(4)
59 34		1	1	1			2	5(2)	5(1)	4(1)	2	2	23(4)
60 35				1	1	3	3	10(3)	3(1)	4	1	1	27(4)
1961 36	1		1		2	3	4(1)	6	6(1)	4(1)	1	1	29(3)
62 37		1		1	2		5(1)	8(4)	4	5	3	1	30(5)
63 38				1		4(1)	4	3(1)	5	4		3	24(2)
64 39					2	2	7	5(1)	6(1)	5	6	1	34(2)
65 40	2	1	1	1	2(1)	3	5	5(2)	8(2)	2	2		32(5)
66 41				1	2	1	4	10(2)	9(3)	4	3	1	35(5)
67 42		1	2	1	1	1	7	9(2)	9	4(1)	3	1	39(3)
68 43				1	1	1	3(1)	8(1)	3(1)	5	5		27(3)
69 44	1		1	1			3	4(2)	3	3	2	1	19(2)
70 45		1				2	3(1)	6(2)	5	5	4		26(3)
1971 46	1		1	3	4	2	8(1)	5(2)	6(1)	4	2		36(4)
72 47	1				1	3	6(2)	5	5(1)	5	3	2	31(3)
73 48							7(1)	5	2	4	3		21(1)
74 49	1		1	1	1	4	4	5(1)	5(2)	4	4	2	32(3)
75 50	1						2	4(2)	5	5	3	1	21(2)
76 51	1	1		2	2	2	4(1)	4	5(1)	1	1	2	25(2)
77 52			1			1	3	3(1)	5	5	1	2	21(1)
78 53	1			1		3(1)	4	8(2)	5(1)	4	4		30(4)
79 54	1		1	1	2		4	2	6(2)	3(1)	2	2	24(3)
80 55				1	4	1	4	2	6(1)	4	1	1	24(1)
1981 56			1	2		3(1)	4(1)	8(1)	4	2	3	2	29(3)
82 57			3		1	3	3	5(2)	5(2)	3	1	1	25(4)
83 58						1	3	5(1)	2(1)	5	5	2	23(2)
84 59						2	5	5	4	7	3	1	27(0)
85 60	2				1	3	1(1)	8(2)	5	4	1	2	27(3)
86 61		1		1	2	2	3	5	3	5	4	3	29(0)
87 62	1			1		2	4	4	6	2(1)	2	1	23(1)
88 63	1				1	3	2	8(2)	8	5	2	1	31(2)
89 H. 1	1			1	2	2(1)	7(1)	5(2)	6(1)	4	3	1	32(5)
90 2	1			1	1	3	4	6(2)	4(2)	4(1)	4(1)	1	29(6)
1991 3			2	1	1	1	4	5(1)	6(2)	3	6		29(3)
92 4	1	1				2	4	8(3)	5	7	3		31(3)
93 5			1			1	4(3)	7(1)	5(2)	5	2	3	28(6)
94 6				1	1	2	7(1)	9(1)	8(1)	6		2	36(3)
95 7				1		1	2	6	5(1)	6	1	1	23(1)
96 8		1		1	2		5(1)	6(1)	6	2	2	1	26(2)
97 9				2	3	3(2)	4(1)	6	4(1)	3	2	1	28(4)
98 10							1	3	5(3)	2(1)	3	2	16(4)
99 11				2		1	4	6	6(2)	2	1		22(2)
2000 12					2		5	6	5	2	2	1	23(0)
01 13					1	2	5	6(1)	5(1)	3	1	3	26(2)
02 14	1	1			1	3	5(2)	6	4	2(1)	2	1	26(3)
03 15	1			1	2(1)	2	2	5(1)	3	3	2		21(2)
04 16				1	2	5(2)	2(1)	8(3)	3(2)	3(2)	3	2	29(10)
05 17	1		1	1	1		5(1)	5(1)	5(1)	2	2		23(3)
平年値 (1971-2000)	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7(0.2)	4.1(0.5)	5.5(0.9)	5.1(0.9)	3.9(0.1)	2.5(0.0)	1.3	26.7(2.6)

- (注) 1. 台風の発生：北西太平洋または南シナ海に存在する熱帯低気圧について、域内の最大風速がおよそ17 m/s 以上になったこと、この日時を含む月を発生月とする。  
 2. 台風の上陸：台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいい、台風の中心が小さい島や半島を横切って短時間で再び海上に出る場合は含まない。  
 3. 表中、( ) 内の数字が上陸数である。  
 4. 太い数字は1951年（昭和26年）以降の最多を示す（ただし2月を除く）。